

## 2023年度 事業活動報告 事業所名 デイセンターぽればれ

### 1、2023年度 事業所方針

<方針> 安心感と見通しのある中で、楽しみのある毎日を、人とのかかわりのなかで作る

①ありのままの姿に寄り添い、安心して自分を出せる場所、ほっとできる居場所づくりをめざす。

②知的に身体的に障害の重い人が多いので、日々一人ひとりの健康チェックをおこない、ご家庭や医療との連携を常におこなう。

③「市民として生きている」実感を地域や社会、人とのつながりのなかでつくる。

④「学び」を意識し、共に学び語りあえる職員集団を目指す。

### 2、利用者・職員状況

・利用者：契約者数／41名（新規利用者1名（毎日利用） 新規入浴支援の利用者1名4回／月）  
平均年齢48歳（19～77歳）

<平日：21名> ・ぽればれのみ… 13名 ・他事業所との併用… 8名

<土曜日：20名 ※他事業所との併用利用>

・職員：所長1名（第三かめおか作業所と兼任） 主任1名

支援員8名（正規：3名 非正規：5名（パート2名を含む）看護師1名（火・木：pm入浴時）

### 3、2023年度 実践内容と成果

・今年度の特徴的なこととしては、法人内最高齢の KK さんがなくなったこと、強度行動障害の AA さんの退所が急きょ決まったことがあげられます。KK さんは共同作業所時代からともにあゆんでこられ 90 歳というご高齢でした。ほかにも高齢のメンバーが多いぽればれでは、あらためて日中活動の在り方、食事・入浴・服薬の支援を見直す取り組みをすすめています。8月と3月には介護保険事業所に見学をし、高齢者を支援するにあたり外せないポイントや記録を残すべきことなど学びました。（3月の見学は先方でコロナが蔓延し延期となっています）まずは誰もがすぐに把握できるよう、個々の支援内容や留意事項などを盛り込み、処方箋を含む朝昼夜の服薬管理の表を一新しました。すべてのメンバーについて会議のなかで共有し、綴ったファイルはすぐに見返せるよう整えました。

・自傷や他傷のある AA さんの受け入れは、高齢の方、精神、車椅子利用、てんかん発作があるなど様々な方がいるなかでどのようにすればいいのか手探りで進めてきました。AA さんの様子を細かに記録・共有し、その都度対応を見直し試みる、その繰り返しをおこなってきました。次第に A さん自身がぽればれでの過ごし方に見通しを持てるようになったこともあり、活動に主体的に参加したり、たくさん笑顔も見られるようになりました。次のステップを考えていた 8 月初旬、急に「入所が決まった」と相談支援センターお結びから連絡が入りました。障害の重い人の社会資源の受け皿は少なく、自ら選び決定することも難しい人たち、障害の重い人の課題を感じました。

・ほかにも今年度は、退院後の日常にもどすための体力づくり、年齢とともに入浴などが難しくなってきた他事業所のメンバーへの対応など、細やかな支援が求められる事例が増えてきました。その都度、個別の状態や思いに沿って安心して楽しく過ごせるよう努めていきたいと思えます。

・ぽればれでは散歩の活動などで色々な場所に行っていますが、自分たちが暮らす亀岡のことを知っているようであり知らないのが現状です。多くの支援が必要で、自ら「～してみたい」と発することが難しいメンバーにとっては、実感が持ちにくいことかもしれません。そこで今年度は「自分の街を

好きになろう」という目的で、まだ行ったことがないお店や新しくできたお店に出かけ、もっと地域のことを知り、もっと好きになる取り組みを行ってきました。個別の対応が必要なメンバーが多いなかで、集団ではなく少人数での活動は、それぞれがたっぷり職員とかかわり、楽しむことができました。来年度は「ちょっとそこまで～」と少人数で、楽しくのんびりできる取り組みを広げていきたいと考えています。

- ・そのほかに昨年度から始めた、ぷちぼれ会議では6メンバーのことを語り合い、個々のアセスメントシートの見直しや充実をめざす取り組みとして定着しています。
- ・またこれまで管理職が中心に担っていたことを主任が、グループ CAP（責任者）が担う、現場職員もそれぞれが何か役割を担う、管理職が一步引くことで職員個々が事業所全体を見る意識を養う取り組みを始めています。

#### 4、次年度以降への課題と取り組むべき実践内容

- ・個別の対応が必要なメンバーが年々増え、トイレや食事の支援、入浴だけで1日が終わっていくことが多くなってきました。落ち着かない雰囲気があることは否めませんが、集団的に、ときに個別を意識した対応を心がけ、一人ひとりが穏やかで楽しい毎日が続けられるよう工夫したいと思います。
- ・併せて職員から、きちんと休憩時間が取れるよう、手立てを構築してほしいと意見が出されています。つねに見守りが必要なメンバーが多い現状ですが、これまで以上にさらに働きやすい職場づくりを目指して取り組んでいきたいと思います。そして日々の活動の充実、障害のある人のことを率直に語り合い、私たちの役割を考えられる職員集団づくりに努めたいと思います。